

がんサロン「よかところネット」レター



今回は高野山真言時の副僧侶でもあり熊本労災病院神経内科医でもある 村端秀映先生に「臨床宗教家ってどんな人」と題し講話を行っていただきました。

話の内容はお盆の由来から人として生きて死んでいくまでを仏教的に説く内容でした。参加者からは「勉強になった」「供養の意味がよく分った」等の声が聞かれていました。講話の最後に参加者から質問があり僧侶的な立場と医者的な立場から返答をされていました。

*下欄に記載しています。

お盆

日本のお盆の歴史はお正月と並ぶに二大行事として営まれてきました。「日本書紀」によると、606年推古天皇時代に「この年より初めて寺ごとに4月8日、7月15日に設齋(おがみ)す」とし4月8日はお釈迦様の誕生を祝う灌仏会(かんぶつえ)、7月15日はお盆(先祖供養)と記されています。現代では地域によって8月15日をお盆とし先祖供養を行っているところも多くあります。

地獄の釜のふたがあく

罪人を攻める地獄で働いている鬼達もお盆の日だけは休み、地獄に落ちた罪人達もお盆だけはゆっくりします。現代の言葉で言い換えれば、“どんなに苦しい事があっても必ず救いはある”という事です。厳しい世の中ではありますが、前向きに生きていこうという教えなのです

生(しょう)生まれること
老(ろう)老いること
病(びょう)病むこと
死(し)死ぬこと

*人生において免れない
四つの苦惱(仏語)全てに
意味があるもの
「苦」苦しいのではない「思い
通りにならない」という意味

Q.まだ「死」について考えたことがなく、受け入れるにはどうしたらいいですか？

A.村端先生

受け止めは誰でもすぐには出来ません。大体、半年前くらいから体調の変化を感じ“何かおかしい”と思いはじめます。自然に来ます。自然に受け入れていきます

Q.なぜ自分がこんな病気になったのかばかり考えてしまいます。

A.村端先生

過去は変えられません。今からやることを大切にしてください。

